

転倒転落予防チームより情報提供

平成 23 年 12 月 24 日

外泊・退院後しばらくのうちは転倒しやすいといわれています。理由として、

・患者さん自身の過信 ・ご家族の過信 ・環境の違い

が多いという結果がわかりました。

なぜ上記のような理由で転倒してしまうのかは、患者・ご家族が経験したことの無いことの初実践で失敗し転倒してしまうことが多いと思います。外泊前にどのように危険を回避するのかを実際にイメージし、リハビリで相談しながら経験することが必要と思います。

①文献で言われている一般的なデータについて

「臨床リハ Vol13 No.4 2004 脳卒中後の大腿骨頸部骨折」より抜粋

- ・脳卒中患者さんが転倒すると 5%に骨折が生じる。
- ・片麻痺のある方の骨折は、大腿骨頸部骨折、上腕骨近位部骨折、肋骨骨折が多く、橈骨遠位端骨折は少ない。
- ・大腿骨頸部骨折患者のうち、脳卒中を合併症としてもつ患者の割合は、男性の方が多い。
- ・退院後 6カ月間で36～73%の患者が転倒を経験される。その大部分が屋内の転倒
トイレ動作もしくは排泄に関連する転倒が高頻度

②当院退院後転倒骨折されて入院された方のデータ（平成 22 年度）

- ・骨折された方は全員女性（頸部骨折 6 名、圧迫骨折 2 名）
- ・骨折は麻痺側
- ・転倒場所：自室－3 名、トイレ－1 名、玄関－1 名、台所－1 名、廊下－1 名
- ・トイレ関連の転倒が多い
- ・時間帯は活動時間帯（朝から夕方まで）

③当院入院中外泊時の転倒について（平成 21～22 年度）

- ・A さん（女性）：自宅で夫とトランスファーをしている時足を捻じって転倒
- ・B さん（女性）：自宅でバケツを両手で持ちながら歩いて転倒
- ・C さん（男性）：介助支援バーを戻していなかったため、ずり落ちて転倒
- ・D さん（男性）：座っている時に気が緩んで滑って転倒
- ・E さん（女性）：襖を開けようとして尻もち／指示物を近くに置くも手放しで歩いたため転倒
- ・F さん（女性）：自宅で後方にしりもちをついてしまう

リハビリスタッフも大丈夫と思っていた方や患者さんにご家族共にリハビリスタッフも転倒を考えた動作確認を不足してしまったための転倒が多いようです。